

MAEDAの
「CSRの4本柱」

企業市民としての 社会・地域貢献活動

重点項目

- 社会・地域とのコミュニケーション
- 社員の環境意識向上

当社は企業市民として、社会や地域の課題解決に向けてさまざまな活動を行っています。ここでは、地域の皆さまとの大切なコミュニケーションでもある社会・地域貢献活動や、社員個人の環境意識向上を目的とするエコポイント制度「Me-pon(ミーポン)」の活用、そしてMAEDAグループ各社における社会・地域貢献活動についてご紹介します。

1 社会・地域とのコミュニケーション

当社は企業市民として、社会的課題の解決に向けたさまざまな活動を行っており、社会・地域貢献活動は、地域の皆さまとの大切なコミュニケーションの一つだと考えています。

社会・地域貢献活動に関する社内表彰

建設業の特徴の一つに、「世界各地に事務所を構え、地域に密着して仕事をする」ということが挙げられます。当社は、地域住民の一人、企業市民の一員であるという意識を持ち、現場やグループ、個人等が自発的に社会貢献活動を行っています。

これらの活動は、各現場からデータベースに登録し社内に情報を公開しています。なかでも、特に優れた活動を「社会・地域貢献活動奨励賞」として表彰しています。

自治会事務所出入口の改修【東京土木支店 美住シールド作業所】

本工事の発進基地の近隣には約1,500世帯が入居する東京街道団地（東京都東大和市）があり、住民の皆さまをまとめる自治会事務所があります。ある日、ご高齢の方や車いすの方が、事務所へ出入りする際に苦労されている様子を見たため、事務所入り口の土間の一部改修、および車いす用のスロープ通路の整備を自治会に提案、施工しました。自治会長やご利用者からは感謝のお言葉をいただきました。

この事例のように、私たち建設事業者の技術や資材を活用すること、私たちができる社会貢献の一つの形であると考えています。



車いす用スロープ通路の施工

大槌高校による復興状況定点観測支援【東北支店 町方復興CMR/大槌復興CMR】

岩手県上閉伊郡大槌町では、県立大槌高校生と神戸大学生による定点観測が定期的に行われています。この取り組みは、震災前の写真がある場所・生徒の皆さんが選んだ場所183カ所を、年3回、同じ位置と角度から撮影し、復興の進捗を記録していくものです。

多くの地点が震災復興工事区域内にあることから、当社はこの活動に全面的に協力しています。安全に配慮し高校生を誘導し、打ち合わせ・休憩場所としての事務所を提供する他、工事が進むにつれ、震災前の写真の撮影ポイントを特定することが困難になってきたため、高校生にGPS測量機器を使ってもらったり、撮影ポイントの特定を行ったりしています。若い方々が自分たちのまちの復興や未来の姿を考え、その実現の一步を踏み出すきっかけづくりを応援しています。



撮影ポイントを探る大槌高校生の皆さん

「生涯学習」をテーマにさまざまな活動を展開【九州支店 古賀市生涯学習センター作業所】

本作業所では、地元小学生のスケッチ大会や、仮囲いを活用した写真や絵画の展示ギャラリーなどを随時開催しています。特に、親子現場見学会は「普段見られない工事の様子が見られてよかった」「建物ができたら、すぐに見に来たい」などご好評を得ています。

本物件は「生涯学習センター」であり、竣工後は、古賀市民の皆さまがさまざまな学びを得たり、活動の成果を発表する場となります。よって、本作業所における活動テーマも「生涯学習」と決めました。本作業所の活動により、年齢を問わず多くの方に施工中から当地に足を運んでいただき、身近な施設と感じていただくことをめざしています。



親子現場見学会の様様

免震装置の体験機会を提供【東京建築支店 千駄ヶ谷5丁目ビル作業所】

近年、免震や耐震といった言葉が一般的に知られるようになりました。そこで、本作業所では、免震装置の設置に伴い免震体験車を依頼し、近隣住民の皆さまに免震装置の効果を体験していただく機会を設けました。参加された方からは、「実際に経験して、免震装置のイメージがより具体的になった」などのご意見をいただきました。

自然災害の多い日本においては、免震装置や耐震構造に頼るだけではなく、日頃から防災意識を高めておくことが重要です。今後も、建物の安全性向上に対する周知活動に加え、防災意識の啓蒙活動も行っていきたいと考えています。



現場敷地内で免震装置の効果を体験

植樹ハイキングに参加【香港支店】

香港支店では、ローカルスタッフ、日本人スタッフの合同チームで、District Preserve Planet Earth Committee主催による植樹ハイキングに参加しました。大帽山にて片道30分のハイキングを行い、その後植樹活動を行うというものです。参加した職員にとっては植樹に関する知識等を学び、環境保護への意識を深める良い機会となりました。

他にも、企業訪問やインターンシップを希望する学生の受け入れ、献血、チャリティマラソンへの参加なども積極的に行っています。日本とは違う風土や文化においても、香港に根を張る企業として積極的に地域社会と関わり、社会が抱える課題解決の一助となる活動を続けていきます。



参加者による記念撮影

【新入社員が研修で磨いた積み木を贈呈しました】

新入社員導入研修において、環境経営への理解促進を目的に、2012年よりMAEDAの森等で森林整備活動を実施しています。昨年にはその事前学習として、木片を磨いて積み木を作るボランティアも行っており、国産材に触れながら、日本の林業の現状や国産材使用状況などについて学びを深めます。

この積み木は長野県佐久地方産の木材で作られており、昨年度の完成品は、岩手県大槌地区2カ所の保育園、長野県佐久市内1カ所の保育園、ならびに光が丘本社近隣の東京都練馬区内1カ所の保育園に寄贈しました。



新入社員から園児に積み木を贈呈（練馬区）

東北支援のための企業ボランティア活動

当社は東日本大震災直後から、事業活動を通じた支援や義援金の拠出だけでなく、社員が積極的に参加できる企業ボランティア制度を整備し、継続的に活動しています。2015年度は6回の活動を実施し、参加者は延べ58名でした。(2011年からの累計実施回数43回、累計参加者数約650人)

2015年度企業ボランティア一覧

回数	活動月	活動内容	参加人数
第1回	7月	陸前高田市うごく七夕まつり(山車制作)	17名
第2回	8月	陸前高田市うごく七夕まつり(飾り制作)	14名
第3回	8月	陸前高田市うごく七夕まつり(当日参加)	14名
第4回	9月	大槌まつり参加	4名
第5回	11月	NPO法人桜ライン311の植樹祭参加	4名
第6回	3月	NPO法人桜ライン311の植樹祭参加	5名

活動報告

「桜ライン311」は、津波到達地点に桜の樹を植え“桜ライン”を作り、永く後世に伝えていこうという岩手県陸前高田市のNPO法人の活動です。当社は毎年行われる植樹祭に企業ボランティアとして2012年から参加しています。津波到達地点での植樹活動は足元の悪い斜面での作業でしたが、当社参加者は復興を願いながら、5本の苗を植樹しました。



NPO法人と協働した環境保全活動

当社は、全国のNPO法人と協働し、各地で森林保全活動を実施し、活動を通して社員・家族の環境意識向上を目的としています。

MAEDAの森

福井県、長野県、熊本県の全国3カ所にある「MAEDAの森」(⇒P.40)では、森林保全活動の一環として毎年行う森林整備活動を通じて、現地NPO法人や社員・家族とともに森づくりの輪を広げています。今年は「MAEDAの森たかもり」、「MAEDAの森佐久」の両プロジェクトが5年の契約満了を迎えましたが、社員や家族が集う環境教育の場という観点からも継続を希望する声があがり、今後も当プロジェクトを継続することを決定しました。



MAEDAの森たかもりの森林整備活動

新入社員研修プログラム「森林整備活動」

当社の環境経営への理解促進と体験を目的に、4月の新入社員研修では森林整備活動を実施しています。NPO法人森のライフスタイル研究所の指導のもと、本年度は東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた千葉県山武市の海岸林再生を目的とした植林活動を行いました。1日で4,000本の植樹を行い、環境保全の大切さ・大変さ、そして当社が環境活動に取り組む意義について学びました。

環境学習会 in 多摩動物公園

NPO法人樹木・環境ネットワーク協会の協力のもと、社員と家族を対象とした環境学習会を多摩動物公園の保護林にて定期的に開催しています。2015年5月の学習会では、散策ツアーや葉っぱを使った蜂の巣づくりやゲームを行いました。9家族30名が参加し、大人も子供も緑と親しみながら生物多様性を保全する大切さを学びました。



海岸林の植樹活動に取り組む新入社員(2015年入社)

MAEDAエコポイント制度「Me-pon(ミーボン)」は、社員と家族の環境活動＝エコアクションを応援するしくみです。「家族と」「仲間と」「楽しく」をキーワードに、エコアクションが社員の生活に定着することをめざしています。

Me-ponの目的

当社独自のエコポイント制度「Me-pon」は、日常生活において、積極的に環境活動に取り組む社員とその家族を応援することを目的に、2010年から運用を開始しました。社員や家族がさまざまな環境活動を行うことでポイントがたまり、そのポイントはエコに関する商品と交換することができます。

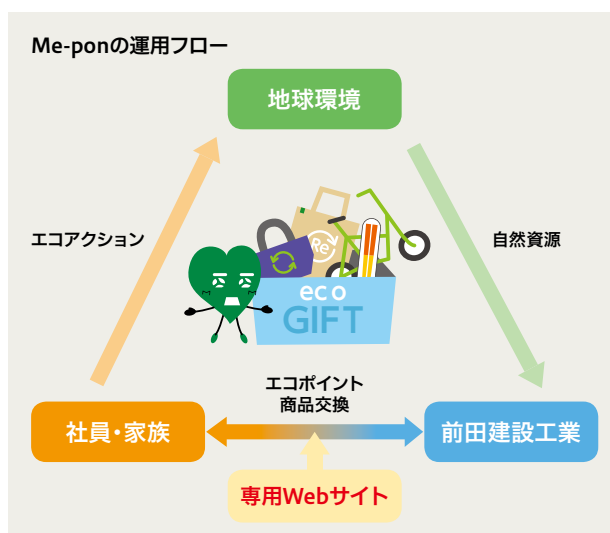
当社では、社員に対する付与ポイント数(社員と家族が活動することによって得るエコポイント)と商品への交換ポイント数を社員の環境活動への参加に対する指標としており、これらのポイント数が増えるほど、社員と家族の環境活動が活発化していると考えています。

Me-ponのしくみと運用フロー

ポイント付与対象となる環境活動には、毎月の電気や水道等の使用量を入力する「環境家計簿」の他、植林や海岸清掃といった環境ボランティア等を社員自らも登録・提案することができ、活動内容や活動時間等により、個別に設定されたポイントが付与されます。

貯まったポイントは自転車などのエコに関する商品の他、東北復興支援に関する商品、環境保全団体への寄付、休暇、人間ドックの受診補助等に交換が可能です。ポイントの申請や商品の注文等は、すべて専用のWEBサイトから行います。社員が注文した商品の梱包、発送業務は社会福祉法人に委託しています。

自転車などの大型商品は直接自宅に届きますが、基本的には、商品はすべて職場から各自が自宅に持って帰るしくみです。これは、配送にかかるCO₂排出量について個人に意識してもらうことをねらいとしています。



より活発な運用に向けて～Me-ponガールによる推進活動～

Me-ponガールとは、各支店におけるMe-ponの推進担当者です。2013年、より多くの社員や家族の参加を呼び掛けようと、一部の支店の安全環境部と本店CSR・環境部の女性7名で発足しました。気軽に問い合わせができる担当者ができたことでMe-ponへの関心が高まり、参加者が増加。そうした実績から、2016年、全国10支店すべてにMe-ponガールが正式に任命されました。

2016年3月に開催されたMe-ponガール会議では、システム運用の問題点や推進活動に関するアイデアなど、活発な議論を行いました。サイトリニューアルにあたってはテスト運用や機能確認にも参加し、参加者の視点からみた使いやすいシステムづくりに関わりました。

総勢12名のMe-ponガールが、担当者の個性を活かし、全国各地の情報発信や、さらなるMe-ponの活性化に努めています。



2016年3月Me-ponガール会議の様子

Me-ponの大幅リニューアルを実施

運用開始から丸6年を迎え、社員から「もっと具体的に環境保全に関われる制度にしてほしい」「環境以外の社会的課題に対応してもいいのでは」といった声が寄せられるようになりました。また、Me-ponガール会議でもシステムを含めたMe-pon全体の運用に関し、改善すべき点についての議論が交わされました。

そこで、それらの意見を反映しつつ「全国各地の社員と家族がより参加しやすく、かつ環境問題や社会課題に自発的に関われる制度」をめざし、2016年5月WEBサイトの機能向上といったシステムの改良から、ポイント付与対象とする環境活動の内容、ポイント付与ルール等の制度に至るまで、大幅なリニューアルを行いました。

●環境意識が高まる活動メニュー

毎日、その日行ったエコな活動を入力する「エコ手帳」、毎週1回出題される「エコクイズ」、毎月の電気や水の使用量を入力する「環境家計簿」、週末等に全国各地で開催される「地域のエコ活動」など、Me-ponに参加することで自ずと環境意識や知識が向上するよう、活動メニューを刷新しました。

●ポイント交換メニューに「電子マネー及び寄付」を追加

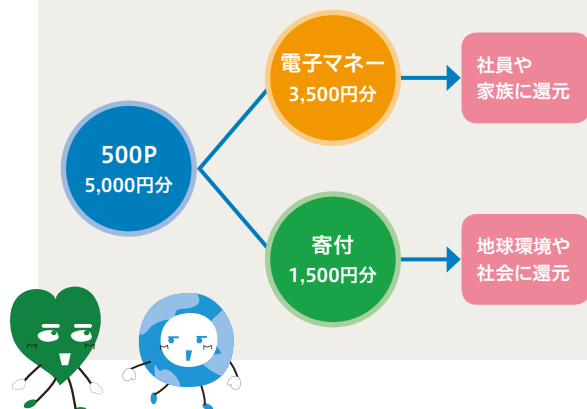
ポイントを電子マネーに交換できると同時に、その一部を環境問題に加え教育、災害復旧支援などの社会的課題に取り組む団体への寄付に充当する交換メニューを新設しました。交換は一口500ポイントから。事務局が予め選定した中から自分が希望する寄付先3団体を選ぶことが可能です。

社員と家族、特に子どもたちが、自らの日々の環境活動で貯められる少額のポイントでも交換でき、かつポイント交換時に、社会貢献への意識を育成できるしくみです。社員や家族、地球や社会、そして支援先にもご満足いただける「三方よし」の効果をめざしています。

リニューアル後のページ(一部)



「電子マネー及び寄付」の運用フロー



利用者の声:子どもの笑顔がMe-ponの励みに

私自身、現場に所属している頃から環境に興味はありました。しかしMe-ponは、運用開始後すぐにエコ検定の合格登録はしたものの、すっかり足が遠のいていたのが事実です。

その後、同じ社宅内に偶然Me-ponガールがいたので、当時2歳の子どもを連れて軽い気持ちで多摩動物公園のイベントに参加したところ、子どもがとても喜びました。我が子の楽しそうな笑顔を見て、子どもと一緒に、自然や環境にまつわる思い出をたくさんつくろうと、Me-ponに積極的に参加するようになりました。

リニューアル後のMe-ponは、各地で行われる環境イベントに登録してもポイントが貯まるようになったのがいいですね。これは面白そうだ、と思ったイベントを、Me-pon参加者の皆さんに紹介する気持ちで登録しています。

貯まったポイントは、自分の自転車と子どもの自転車用ヘルメットに交換したいと思っています。子どもと一緒に、自転車で環境イベントに参加するのを楽しみにしています。



本店営業推進部 営業推進第2G 城古雅典

MAEDAグループでは、建造物に関わるさまざまな事業を展開しています。ここでは、MAEDAグループが事業を通して、地域とのコミュニケーションを大切にしながら取り組んでいるCSR・環境活動を紹介します。

MAEDAグループについて

MAEDAグループは、それぞれの事業や社会貢献活動を通じて、CSR・環境活動に取り組んでいます。グループ会社の業務内容はさまざまであることから、それぞれ事業形態にあった社会貢献活動を行いました。

たとえば、ホテルや保険といった法人だけではなく個人のお客さまも対象としている会社や、工場を構えて事業を行っている会社では、近隣住民の方々との交流に主眼を置いた活動を重視しています。一方、海外のグループ会社においては、現地の社会的課題の解決に寄与する活動へ参加しています。

今後も、MAEDAグループ各社と前田建設が連携して取り組むことにより、社会的信頼のさらなる向上をめざします。

【(株)JM】いち早く熊本地震被災地に駆け付けたJM

株式会社JMは4月14日の熊本地震発生以降、まだ油断できない状態が続く中、現地入りし顧客施設の点検・復旧を行い、復興に努めました。

これまでの中越地震や東日本大震災での経験を活かして、震災発生当日中に本社へ対策本部を設置。翌日には現地へ統括責任者を派遣し、熊本サテライトをベースキャンプとして資材置き場・宿泊所を確保しました。以降、九州全土を中心に北は青森まで全国から延べ51名が応援に駆け付けました。仮設トイレは100基を調達し、経済産業省から仮設トイレ設置の要請を受けた顧客施設に対しても迅速に設置を行い、地域に貢献しました。

また、今回の震災対応では自社の新しい情報集約システム(Matabee Motion Board)を活用して、顧客施設の状況を広域的に可視化し、効率的に点検・修繕対応を行うとともに、公共の給水所情報を取り込むことで断水地域を特定し、独自の判断で必要な施設に仮設トイレの設置を行うことができました。

JMの迅速な対応と、現地に寄り添う姿勢に対し、お客様であるセブン・イレブン・ジャパン様、西友様から、感謝状をいただきました。



【光が丘興産(株)】J. CITYアート展を振り返って(全11回)

毎年、まだ寒さの厳しい2月下旬にアート展の季節がやってきます。アート展の会場はいつも子どもたちの熱気で包まれています。絵画や音楽のクラブに属する子どもたちにとって自分の作品や演奏を発表する場があるということは、大きなはげみになります。子どもたちのパワーと笑顔に出会える場所、それが私たちボランティアにとってのアート展でした。

アート展も最初の頃は試行錯誤の連続でしたが、回を追うごとに、実行委員としてご参加いただいた学校の先生方と議論を重ね、絵画・音楽の発表とワークショップ(図画工作)の展覧会として、地元でも定着し、リピーターも増えてきたと感じております。最近では、小中学生として出展してくれた子どもたちが成長し、今度はボランティアとして手伝いに来てくれました。

残念ながらアート展は第11回をもって終了となりますが、またいつか別の形でこのような展覧会があれば、ボランティアとして支援していきたいと考えています。



第11回J. CITYアート展(最終回)の様子